

建築教育ニュース

1996. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長あいさつ……………会 長…北島 敬己… 1
2. 平成7年度事業および会計（決算）報告……………事 務 局… 2
3. 平成8年度事業計画・会計（予算）および役員名簿……………事 務 局… 4
4. 平成8年度総会・研究協議会報告……………名古屋市立工芸高…中野 剛夫… 8
5. 夏期研究協議会に参加して……………青森県立南部工高…大久保智子…11
6. 計画分科会報告……………主査 小田原城北工高…大庭 孝雄…13
7. 製図分科会報告……………主査 墨田工高…古賀 昌之…16
8. 構造分科会報告……………主査 田無工高…本間 正明…20
9. 施工分科会報告……………主査 神奈川工高…山崎 敏弘…24
10. 製図コンクール運営委員会報告……………委員長 蔵前工高…土田 裕康…28
11. 資格取得検討委員会報告……………委員長 宇都宮工高…岡田 義治…32
12. 茨城県工業高等学校建築教育の現況……………大宮工高…辻 昌良…33
13. 宮城県工業高等学校建築教育の現況……………仙台工高…平 孝幸…36
14. 長野県工業高等学校建築教育の現況……………長野工高…小林 隆…38
15. 石川県工業高等学校建築教育の現況……………羽咋工高…布施 東雄…40
16. 事務局ニュース・報告……………事務局長 蔵前工高…堀内 仁之…42

あ と が き

1. あいさつ

会長 東京都立蔵前工業高等学校長

北 島 敬 己

去る6月6日、7日に平成8年度第46回東日本建築教育研究会総会・研究協議会が愛知県名古屋市中で開催され、総会において承認を受け、会長をお引き受けいたしました。微力ではありますが、事務局一同、努力してまいりますので、会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

大会は、東海地区の方々の綿密な計画のもとに実施され、多数の会員の熱心な研究発表がなされました。年に一度とはいえこのような盛大な大会が実施できたことは、開催地区の並々ならぬご努力の賜と存じます。心から感謝申し上げます。

さて、私事で恐縮ですが、8月に青森県の三内丸山遺跡を見学する機会がありました。この遺跡は1万年近く続いた縄文時代の中ごろ、今から5500～4000年も前の集落の跡だそうです。噂では聞いておりましたがその規模の大きさに驚きました。現在もまだ遺跡の発掘が行われていました。遺跡の中でも直径2m・深さ2mの柱穴と直径1mの柱材が発見されたのは驚きです。穴や柱の大きさ、土の状態から推測して、この建物は高さ20mはあったと考えられるという。これが事実ならば、高層建築物が造られたのは弥生時代以降という説が崩れるのだそうで、この時代の建築技術がかなり進んでいたことがわかります。建築が非常に歴史のある学問であることを痛感しました。また、建設機械の存在しないこの時代に、どのようにしてこのような建築物が造られたのか、あるいは巨大な建築物をなぜ造る必要があったのかなど、悠久のロマンに触れる思いでありました。

ところで、7月23日付けの建設省告示第1594号に伴い、今年度から「建築施工技術者試験」が実施されることになりました。ご承知のとおりこの試験は、全国工業高等学校長協会の強力なバックアップのもとで、全国高等学校建築教育連絡協議会（東日本建築教育研究会を含む五つの組織をまとめたもの）が窓口となって、実施を強く要請してきたものであります。この試験は、本年の12月15日（日）に実施予定となっています。合格者には、二級の建築施工管理技術検定の学科試験において2科目が免除されます。

試験の実施を強く要請してきた経緯からも、本試験の実施結果を多数の方々が注目しており、これはまた建築教育に携わる者の評価にも結びつくと考えられます。どうか、受験者の確保とともに受験者への指導に十分ご配慮いただきますようお願い申し上げます。

最後に、会員各位の益々のご健勝とご活躍を祈りつつ、また、来年の長野大会での再会を楽しみに筆を置きます。

2. 一平成7年度 事業報告一

1 総会・研究協議会

期 日：平成7年6月8日（木）～9日（金）

会 場：ホテル「ホリデイ・イン東武成田」 TEL 0476-32-1234

1) 総会……………第1日（6月8日）

2) 研究協議会（分科会）

共通テーマ：「建築施工技術者試験（仮称）の指導法について」

ア) 製図分科会：新教育課程における製図指導をめぐって
（単位数減への対応とCAD教育）

イ) 計画分科会：建築法規の指導法について

ウ) 構造分科会：興味がわく構造関係の課題研究

エ) 施工分科会：単位数減にともなう施工の指導法について

3) 研究協議会（全体会）……………第2日（6月9日）

研究発表Ⅰ：「建築と子供達カリキュラム」（アメリカ・アンテラ教授）から
学ぶもの

敬愛学園高等学校 教諭 加倉井 砂 男

研究発表Ⅱ：歴史的建造物の実測調査及び模型製作

千葉県立市川工業高等学校 教諭 江 口 敏 彦

4) 研究視察

幕張新都心住宅地区

2 夏期研究協議会

内 容：「建築法規」・「建築史」講習並びに「川越の町並・文化財」見学

期 日：平成7年7月27日（木）～28日（金）

会 場：埼玉県立川越工業高等学校

埼玉県川越市西小仙波町2-28-1 TEL 0492-22-0206

参加人数：68名（受講者数）

3 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2) 主 査 会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3) 各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長，副会長，事務局長，分科会主査

5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6) 工業標準テスト問題作成委員：主査，委員4名（大宮工，神奈川工，日工大
付東京工，田無工）

7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

8) 資格取得検討委員会：委員長，副会長，分科会主査，事務局長，委員若干名

4 刊行物……………建築教育ニュース 1995年号（11月発行）

会員名簿（6月発行）

5 製図コンクール（第14回） 平成7年11月実施

—平成7年度 会計決算報告—

下記のとおり報告いたします。

会長 吉 村 義 弘
 会計 事 務 局

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
会 費	725,000	740,000	15,000	148校分 (5,000円×148校)
雑 収 入	50,136	50,279	143	助成金, 銀行利子
印 税	120,000	112,752	-7,248	基礎問題, 図集等
繰 越 金	55,864	55,864	0	
合 計	951,000	958,895	7,895	

2. 支 出 額

項 目	予 算 額	決 算 額	増 減 額	摘 要
1) 事 業 費	675,000	675,880	-880	
総 会 費	100,000	96,340	3,660	協議会補助, 本部経費等
資 料 費	220,000	224,540	-4,540	資料, ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会(計画)補助
出張補助費	120,000	120,000	0	西日本, 北海道出張補助
分科会費	175,000	175,000	0	4分科会・1委員会 各35,000円
2) 運 営 費	271,000	274,103	-3,103	
役員会議費	15,000	5,500	9,500	常任理事会・主査会等
通 信 費	126,000	138,603	-12,603	総会通知, ニュース発送等
雑 費	10,000	10,000	0	事務用品代
事 務 費	10,000	10,000	0	事務局運営費
名 簿 費	110,000	110,000	0	名簿作成費
3) 予 備 費	5,000	0	5,000	
4) 合 計	951,000	949,983	1,017	

3. 差引残高 $958,895 - 949,983 = 8,912$ 円 収入増 7,895円

4. 次年度繰越 $8,912$ 円 支出減 1,017円

会計監査の結果, 収支, 帳簿等相違ないことを認めます。

平成8年3月31日

会計監査 高橋 義治
 松田 紘

3. 一平成8年度 事業計画一

1 総会・研究協議会

期 日：平成8年6月6日（木）～7日（金）

会 場：名古屋国際会議場 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

1) 総会……………第1日（6月6日）

2) 研究協議会

ア) 東海ブロック研究発表

- ・岐阜県 「紙を活かした課題研究の取り組み」 大垣工業 若 尾 泰 明
- ・静岡県 「本校におけるCAD教育」 天竜林業 名 倉 齊 志
- ・愛知県 「建築積算の指導法について」 半田工業 桑 田 隆 行
- ・愛知県 「建築教育におけるマルチメディア」 名市工芸 石 原 正 道

イ) 各分科会発表 共通テーマ「単位減に伴う教科指導法」について

ウ) 質疑応答

エ) 講評

3) 講演会……………第2日（6月7日）

テーマ：『私の環境論』

名古屋工業大学名誉教授 宮 野 秋 彦

4) 研究視察

博物館「明治村」

2 夏期研究協議会

内 容：「建築施工」に関する講習並びに見学会

期 日：平成8年7月29日（月）・30日（火）

会 場：神奈川県立神奈川工業高等学校

神奈川県横浜市平川町19-1 TEL 045-491-9461

3 常任理事会・委員会等（年5～7回）

1) 常任理事会：会長，副会長，事務局長，分科会主査，代表理事若干名

2) 主 査 会：会長，副会長，分科会主査，事務局長

3) 各 分 科 会：分科会主査，学校代表委員若干名

4) 教材委員会：委員長，副会長，事務局長，分科会主査

5) 製図コンクール運営委員会：委員長，副会長，委員若干名

6) 工業標準テスト問題作成委員：主査，委員4名（田無工，市川工，日工大付
東京工，川崎総合科学高）

7) 編集委員会：委員長，副会長，委員若干名

8) 資格取得検討委員会：委員長，副会長，分科会主査，事務局長，委員若干名

4 刊行物……………建築教育ニュース 1996年号（11月発行予定）

会員名簿（6月発行予定）

5 製図コンクール（第15回） 平成8年11月

—平成8年度 予 算—

平成8年4月1日

1. 収 入 額

項 目	予 算 額	摘 要
会 費	870,000	145校分 (6,000円×145校)
雑 収 入	50,088	助成金, 利子
印 税	110,000	基礎問題, 図集等
繰 越 金	8,912	平成7年度繰越金
合 計	1,039,000	

2. 支 出

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事 業 費	749,000	
総 会 費	139,000	協議会補助, 本部経費等
資 料 費	230,000	総会資料, ニュース等印刷費
講 習 会 補 助	60,000	夏期講習会 (施工) 補助
出 張 補 助 費	120,000	西日本, 北海道出張補助
分 科 会 費	200,000	4 分科会・1 委員会 各40,000円
2) 運 営 費	285,000	
役 員 会 議 費	15,000	理事会, 主査会等
通 信 費	130,000	総会通知, ニュース発送通信費等
雑 費	10,000	事務用品代
事 務 費	10,000	事務局運営費
名 簿 費	120,000	名簿作成費 (不足分は広告費で支出)
3) 予 備 費	5,000	
4) 合 計	1,039,000	

—平成8年度 役員名簿—

- | | | | |
|-----------|--------------------|---------------------|--------------|
| 1. 会 長 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 校長 | 北島 敬己 |
| 2. 副 会 長 | 名古屋市立工芸高等学校 | 校長 | 坂野上 義 |
| | 長野県長野工業高等学校 | 校長 | 藤森 弘 |
| | 千葉県立市川工業高等学校 | 教諭 | 佐藤 哲 |
| | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 土田 裕康 |
| 3. 事務局長 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 堀内 仁之 |
| 4. 会 計 | 東京都立蔵前工業高等学校 | 教諭 | 大橋 正俊 |
| 5. 会計監査 | 千葉県立市川工業高等学校 | 教諭 | 高橋 義治 |
| | 東京都立葛西工業高等学校 | 教諭 | 前田 潔 |
| 6. 常任理事 | 北島 敬己 (会長) | 坂野上 義 (副会長・名古屋工芸高) | |
| | 藤森 弘 (副会長・長野工) | 杉田 博 (校長・起工) | |
| | 小野 幹郎 (校長・日工大付東京工) | 古谷 勉 (校長・府中工) | |
| | 仲田 治喜 (校長・横浜工定) | 曾我 亮二 (副会長・高崎工) | |
| | 佐藤 哲 (副会長・千葉・市川工) | 土田 裕康 (副会長・蔵前工) | |
| | 古賀 昌之 (製図主査・墨田工) | 大庭 孝雄 (計画主査・小田原城北工) | |
| | 本間 正明 (構造主査・田無工) | 山崎 敏弘 (施工主査・神奈川工) | |
| | 堀内 仁之 (事務局長・東京) | 大橋 正俊 (会計) | |
| | 池上 信幸 (葛西工) | 奥田 幸司 (小石川工) | |
| | 市毛 輝男 (昭和第一学園) | 遠藤 勇 (日工大付東京工) | |
| | 大間 俊彦 (関東第一高) | 安藤 允浩 (安田学園) | |
| | 門馬 進 (東工大附工) | 本田 友一 (埼玉・川越工) | |
| | 岡田 義治 (栃木・宇都宮工) | 江原 哲二 (群馬・藤岡工) | |
| | 天野 喜幸 (山梨・甲府工定) | 平野 和成 (静岡・島田工) | |
| | 沼田 勲 (北海道・札幌工) | 松井 貞二 (全国事務局長) | |
| 7. 都道県理事 | | | |
| 北海道 | 高橋 實 (釧路工) | 北海道 | 沼田 勲 (札幌工) |
| 青 森 | 伊藤 勝敏 (弘前工) | 秋 田 | 照井 由郎 (横手工) |
| 岩 手 | 高橋 勝吉 (盛岡工) | 山 形 | 中野 昇 (鶴岡工) |
| 宮 城 | 平 孝幸 (仙台工) | 福 島 | 菊田 忠 (福島工) |
| 栃 木 | 増渕 政幸 (真岡工) | 茨 城 | 辻 昌良 (大宮工) |
| 群 馬 | 岩井 章二 (高崎工) | 埼 玉 | 香山 厚雅 (春日部工) |
| 千 葉 | 佐藤 哲 (市川工) | 東 京 | 堀内 仁之 (蔵前工) |
| 神奈川 | 山崎 敏弘 (神奈川工) | 山 梨 | 藤巻 嘉久 (甲府工) |
| 長 野 | 土屋 博一 (長野工) | 新 潟 | 景山 常樹 (新潟工) |
| 富 山 | 岩井 忠 (高岡工芸) | 石 川 | 布施 東雄 (羽咋工) |
| 福 井 | 橋本 和之 (武生工) | 静 岡 | 平野 和成 (島田工) |
| 愛 知 | 中野 剛夫 (名古屋工芸) | 岐 阜 | 椿井 敏夫 (岐阜西工) |
| | 各都道県建築科出身の学校長 | | |
| 8. 各分科会委員 | | | |
| 1) 製図分科会： | 主査・古賀 昌之 (墨田工) | | |
| | 土田 裕康 (蔵前工) | 福島 | 勝 (日工大付東京工) |
| | 塩澤 泰 (関東第一高) | 筒井 | 斉 (向の岡工) |
| | 菊池 貞介 (市川工) | 田口 | 学 (向の岡工定) |
| | 角田 勝男 (神奈川工) | 長島 | 佳久 (春日部工) |

- 金井 孝雄 (高崎工定) 小沢 宏 (墨田工)
 増渕 政幸 (真岡工) 橋本 政美 (昭和第一学園)
- 2) 計画分科会： 主査・大庭 孝雄 (小田原城北工)
 中西 章 (東工大附工) 大間 俊彦 (関東第一高)
 大橋 正俊 (蔵前工) 池田 健司 (大宮工定)
 田中 良司 (川越工) 中島 久男 (鶴見工)
 佐々木正純 (館林商工) 高崎 和久 (藤沢工)
 酒巻 仲生 (葛西工) 佐藤 弘隆 (横浜工定)
 岩上 成輝 (川崎総合科学高)
- 3) 構造分科会： 主査・本間 正明 (田無工)
 佐藤 哲 (市川工) 松井 貞二 (蔵前工)
 栗原 博 (蔵前工定) 榎本 吉晃 (安田学園)
 亀山 和由 (関東第一高) 西村 文雄 (川越工)
 益野 英昌 (仙台工) 福住 英毅 (神奈川工)
 斉藤 延夫 (宇都宮工) 今井 賢治 (前橋工)
- 4) 施工分科会： 主査・山崎 敏弘 (神奈川工)
 堀口 武 (武蔵越生高) 小池 逸朗 (北富士工)
 佐藤 克典 (神奈川工定) 千葉 一雄 (東工大附工)
 塩山 昇 (熊谷工) 高橋 康宏 (田無工)
 内藤美雪丸 (日工大付東京工) 田島 昇 (大宮工)
 丸山 悟 (葛西工) 小嶋 計一 (宇都宮工)
 田辺 登 (昭和第一学園) 木村 孝 (桐生工)
9. 教材委員会： 委員長・佐藤 哲 (副会長)
 土田 裕康 (副会長) 堀内 仁之 (事務局長)
 古賀 昌之 (製図主査) 大庭 孝雄 (計画主査)
 本間 正明 (構造主査) 山崎 敏弘 (施工主査)
10. 編集委員会： 委員長・大間 俊彦 (関東第一高)
 遠藤 勇 (日工大付東京工) 鈴木 健 (葛西工)
 古賀 昌之 (墨田工) 菊池 貞介 (市川工)
11. 製図コンクール運営委員会： 委員長・土田 裕康 (蔵前工)
 塩澤 泰 (関東第一高) 古賀 昌之 (墨田工)
 筒井 斉 (向の岡工) 福島 勝 (日工大付東京工)
 角田 勝男 (神奈川工) 菊池 貞介 (市川工)
 金井 孝雄 (高崎工定) 長島 佳久 (春日部工)
 田口 学 (向の岡工定) 小沢 宏 (墨田工)
 大間 俊彦 (関東第一高) 増渕 政幸 (真岡工)
 橋本 政美 (昭和第一学園) 岩上 成輝 (川崎総合科学高)
 榎本 吉晃 (安田学園) 今井 賢治 (前橋工)
 堀口 武 (武蔵越生高) 佐藤 克典 (神奈川工定)
12. 資格取得検討委員会： 委員長・岡田 義治 (宇都宮工)
 佐藤 哲 (副会長) 土田 裕康 (副会長)
 堀内 仁之 (事務局長) 古賀 昌之 (製図主査)
 大庭 孝雄 (計画主査) 本間 正明 (構造主査)
 山崎 敏弘 (施工主査) 長島 佳久 (春日部工)
 高橋 義治 (市川工) 三原 斉 (日工大付東京工)
 岩井 章二 (高崎工) 松井 貞二 (全国事務局長)

4. 平成8年度 総会・研究協議(東海ブロック)大会報告

名古屋市立工業高等学校 中野剛夫

平成8年度東日本建築教育研究会総会・研究協議大会が6月6～7日の2日間にわたり「名古屋国際会議場」を会場として、文部省岩本宗治視学官をはじめ来賓や会員合わせて195名の参加により盛会のうちに開催された。

理事会の後総会が開催され、坂野上 義実行委員長、吉村義弘会長の挨拶に始まり、大会実施要項に従い議事案件が審議され、新役員として北島敬己会長が承認された。

研究協議会では東海ブロック研究発表として、岐阜県から「紙を活かした課題研究の取り組み」・静岡県から「本校におけるCAD教育」・愛知県から「建築積算の指導演法について」・「建築教育におけるマルチメディア」の発表があった。分科会として製図分科会から「新教育課程のもと単位数減における設計製図の指導演法について」・計画分科会から「建築法規学習ノートと分科会活動状況」・構造分科会から「単位数に伴う教科指導演法について」・施工分科会から「建築施工技術者試験の指導演法について、及び単位数減にともなう建築施工の指導演法について」・工業高校生の建築現場実習についてアンケート報告以上の発表があった。研究発表後愛知県の堀口通安指導主事の講評があり第1日目の日程を滞りなく終了した。

2日目は名古屋工業大学名誉教授宮野秋彦先生の「私の環境論」というテーマで講演が行われ、その後文部省岩本宗治視学官による第15期中央教育審議会の「21世紀を展望した我が国の教育について」という内容で講演をいただき、2日間にわたる大会を閉会した。

午後からは明治建築を保存展示する野外博物館として、昭和40年3月開村した「博物館明治村」を見学した。

期 日 : 平成8年6月6日(木)～7日(金)

会 場 : 名古屋市「名古屋国際会議場」

日 程 : 第1日 6月6日(木)

理事会 10:30～12:00

[1] 開会式 13:00～13:40

- | | | |
|------------|------------------|-------|
| (1) 開会のことば | 東海地区建築教育研究会副会長 | 杉田 博 |
| (2) 挨拶 | 東海大会実行委員長 | 坂野上 義 |
| | 東日本建築教育研究会会長 | 吉村 義弘 |
| | 東海地区建築教育研究会会長 | 寺島 博 |
| (3) 来賓祝辞 | 愛知県教育委員会高等学校教育課長 | 野々部幸蔵 |
| | 名古屋市教育委員会指導室長 | 加藤 友昭 |
| | 全国工業高等学校長協会理事長 | 井口 茂 |

- | | | |
|------------|---------------------|-------|
| (4) 来賓紹介 | 東海地区工業高等学校長会教育研究会会長 | 鈴木 義雄 |
| | 愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事 | 堀口 通安 |
| | 名古屋市教育委員会指導室主任指導主事 | 神谷 尚男 |
| | 西日本工高建築連盟会長 | 石川 俊一 |
| | 愛知県高等学校工業教育研究会会長 | 永屋 達夫 |
| | 愛知県産業教育振興会理事 | 越山 定明 |
| | 愛知県教育振興会常任理事 | 三林 貞夫 |
| | 愛知県教育公務員弘済会理事長 | 磯部 了 |
| (5) 閉会のことば | 東海大学実行副委員長 | 稲葉 一八 |

〔2〕 総 会 …………… 13:50~14:40

- (1) 開 会
- (2) 議長選出
- (3) 議 事
 - ア 平成7年度事業報告・決算報告
 - イ 会計監査報告
 - ウ 役員改選
 - エ 平成8年度事業計画・予算案審議
 - オ 会長吉村義弘先生へ感謝状贈呈
- (4) 本部事務局諸連絡
- (5) 各委員会報告
- (6) そ の 他
- (7) 閉 会

〔3〕 研究協議会 …………… 14:50~16:50

- (1) 東海ブロック研究発表

ア 岐阜県 「紙を活かした課題研究の取り組み」	大垣工業	若尾 泰明
イ 静岡県 「本校におけるCAD教育」	天竜林業	名倉 斉志
ウ 愛知県 「建築積算の指導法について」	半田工業	桑田 隆行
エ 愛知県 「建築教育におけるマルチメディア」	名市工芸	石原 正道
- (2) 分科会発表

ア 製図分科会 「新教育課程のもと単位数減に おける設計製図の指導法について」	墨田工業	古賀 昌之
イ 計画分科会 「建築法規学習ノートと 分科会の活動状況」	小田原城北工業	大庭 孝雄
ウ 構造分科会 「単位数に伴う教科指導法について」	田無工業	本間 正明
エ 施工分科会 「建築施工の学習指導法について」 「工業高校生の建築現場実習について」	神奈川工業	山崎 敏弘

(3) 質疑応答

(4) 講 評 16:50~17:10

愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事 堀口 通安

日 程：第2日目 6月7日（金）

〔1〕講演会 …………… 9:30~10:30

テーマ「私の環境論」

名古屋工業大学名誉教授 宮野 秋彦

テーマ「21世紀を展望した我が国の教育について」

文部省初等中等教育局視察学官 岩本 宗治

〔2〕閉会式 …………… 10:40~11:00

(1) 会長挨拶 東日本建築教育研究会会長 北島 敬己

(2) 次期開催県代表挨拶 長野県長野工業高等学校長 藤森 弘

(3) 閉会の挨拶 東海大会実行委員長 坂野上 義

〔3〕研究視察 …………… 11:20~14:30

視察場所 「博物館明治村」

〔4〕解 散 …………… 15:30

「JR名古屋駅」

講演会要旨

講演は建築環境学に関する初期の主な著書、渡辺 要「建築計画原論」（昭和9）から昭和40年位までの時代と先生の環境学に対する考えを紹介。次いで建築学における「環境」について、先人の研究と功績について説明。そして環境工学という言葉について、昭和26年8月日本建築学会の中に「建築設計計画基準委員会」という名称の委員会が設置され、それは建築設計計画委員会と改称し「計画各論」と「建築原論」の両領域に属する研究者により構成されていた。

その後原論分野の研究者を中心とした「環境委員会」が発足し、「建築計画原論」という呼び名が「建築環境工学」と改められ今日に及ぶ。

そして最後に最近環境を話題にするとき良く用いられる言葉に言及され、「アメニティ」とか「共生」という言葉について先生の長年にわたる学識経験を交え解説された。

宮野先生の講演



博物館明治村の見学風景



5. 夏期研究協議会に参加して

青森県立南部工業高等学校 教諭 大久保智子

平成8年度東日本建築教育研究会夏期研究協議会が、7月29日、30日の2日間、神奈川県立神奈川工業高等学校において開催されました。今年は、施工分科会の主催で、「建築施工」に関する講習並びに見学会が行われました。

この研究協議会の話をしていただき、建築積算講義・建築施工図講義・建築施工図実技という言葉が目にとまり、決まっていた名古屋での研究大会参加を変更して、この研究協議会に参加することにしました。予想に反して、実技を伴うものがなくなったのは残念なことでしたが、変わりつつある横浜の象徴ともいえる工事現場を見学できて、有意義な協議会参加になりました。以下に、体験記をまとめてみます。

出張の前日、千葉の妹へ電話をかけたところ、「気温は体温以上あるよ。」との話。行く前から、どっと汗が吹き出る。やっと夏らしくなった八戸では30度を越える日がようやく5日程続いた頃であった。

横浜到着、「やっぱり暑い。」お風呂あがりの湿った空気が、どこへいくにもまとわりつく。唯一の救いは、宿泊したホテルが横浜駅から地下道を通して直接行けたことである。それでも、体温以上になっていなかったので一安心。夜になってもエアコンの利くホテル以外はうだるような暑さ。明日からの研修が思いやられる。

東神奈川駅下車。やっぱり暑い、まだ9時過ぎだというのに。研修は、・・・憂鬱。

徒歩5分、神奈川工業高等学校到着。門から校舎まで土を歩かずに、校舎（10階建てビル）へ。矢印に習って受付を済ませてエレベーター（！）で講義室へ。うわー、涼しい。エアコン完備。「やっぱり、都会は違う。」（一人納得）これまでの暑さからのうっとうしい気持ちがサッと引けていくようでした。

会場校の校長の挨拶から、全日制8クラス、定時制4クラスの構成で、校舎が昨年3月に完成したことを知り、りっぱな設備に納得しました。

建設施工図の指導法については、(有)シニマックプランナーズ建築研究所の代表取締役の望月 治氏による講義でした。施工図は、設計図を忠実に作るための現場用の図面として扱うのではなくて、設計図と法規と現場の材料の寸法を含めて、安全な建築物を作るために最終的なチェックを行う大切な図面であること。そして、設計図と施工図が分離することがないように絶えず設計者と施工者とが、建築物の図面をもとに、質疑応答をして、流動的に対応していかなければならないということを知った。

また、授業での指導の提案として、ご自身が工業高校出身者という望月氏は、教科書中心で多種の図面を生徒に描かせるよりは、同じ図面を縮尺を変えて10回以上描かせることの方がより多く学ばせることができるのではないかと提案された。また、対象物を教科書

から取り出さずとも各学校の校舎の中に、学ぶべき材料があるのではないかと、そのほうが生徒の身近にある教材になるのではないかと提案された。

2日目は、桜木町改札口で集合して、みなとみらい21中央区24街区新築工事T・R・Y90工区の現場見学であった。横浜といえば、古くから外国の香りを運んでくる国際色豊かな港町というイメージであったが、新しい横浜は違った。桜木町駅から動く歩道に乗り、右手に帆船日本丸を望みながら巨大なショッピングプラザ（ランドマークタワー）の3階へと続き、その先に金属製の近代的なモニュメントが見える。それを通り抜けたところが、現在建築中の地区である。「いったい、ここは横浜か？」と疑いたくなる展開であった。もう、10年以上来たことのなかった私には驚きの体験であった。まだご覧になっていない方は、是非2000年以降にどうぞ。

1990年にReform YOKOHAMAのために作られたTeamということで、T・R・Y90ができたそうだ。建築中のビジネスビル3棟への通勤が地下5階の地下鉄駅からエレベーターで、ビルへ連動していて、地下鉄と十字に交差するように動く歩道がビル3階を通る。これは、ランドマークプラザからつながる動く歩道である。ショッピング・ビジネス・マイホームをつなぐ交通網（地下鉄・高速道路）の充実。こうやって書いているだけで、心うきうき、なめらかに宣伝文句が出てきそうです。

工事現場で気づいたことは、安全確保に気を使っているということ。大きなパネルを覗いてみると、何十枚ものクリアファイルが張り付けてあった。その中には、各作業場での些細な事故（落下や転倒）が記入されていて、その原因と対策が書き込まれていた。工事の説明資料にも記載されていたが、工事の進め方と同じぐらいに安全面に気を使っていて、縦・横の連絡網を作るための努力がうかがえた。また、現場のOA化にも驚いた。事務系の部署には各工事部ごとにコンピュータの端末が設置されていて、ネットワークが組まれていたり、契約会社からの気象情報をみどりVANを使って取り出せるようになっている。それにより、各部署で知りたい情報をコンピュータ上で検索して、即表示させることもできるし、気象情報を元に建築計画の見直しもできるようになっていた。図面の引き出しも単なるCADではなくて、CAC（3次元建築モデル）が、使えるようになっていた。また、作業員2800名の現場で、侵入者のチェックを行うために、各自にカードを持たせて、ゲートを通していった。まさに、未来都市作りに見合った未来の建築現場であった。工事現場では、女性が事務系115名中15名、OA施工図55名中15名が働いているそうです。帰りがけ、昼食に集まる作業員の中にも若い女性が働いていた。同じ女性として、こんな活気のある建築物の建築に携わることのできる女性たちを見て、ますます刺激された。

今回経験したこと、感じたことを踏まえて、新しい授業展開をしていきたいと思います。

6. 計画分科会報告

神奈川県立小田原城北工業高等学校 大庭 孝雄

今年は計画分科会活動の節目の年となりました。最近、10年間の分科会活動の中心的な研究課題でありました「建築法規に関する教材の作成」が、紆余曲折の末、本年3月末の「建築法規の学習ノートの刊行」にまとめあげることができました。

長きにわたりました「建築法規」の課題に一応の区切りを得まして、本年より分科会として久しく研究課題として取り上げるのできなかった分野、「建築史」をテーマに、その学習指導法を中心課題といたしまして分科会活動を進めていきたいと考えております。

ここで、「建築法規学習ノート」刊行の報告とこれからの研究課題「建築史の学習指導法」の取り組みにつきまして概括ご報告申し上げます。

○「建築法規学習ノート」刊行の報告

教科書はもとより手頃な建築法規に関する教材がなかった古い時代に研究会として独自の教材作成の必要性に迫られ、分科会活動の一環として取り組むことになりました。

昭和63年4月に計画分科会から、研究会教材委員会に仮称「建築法規の手引書」の執筆計画案を提示、了承を得て執筆活動を開始いたしました。

平成4年3月には、教材委員会に「見本原稿」を提示、同年7月に脱稿の運びとなりましたが、平成5年の建築法規の大改正と平成8年度版教科書の刊行予定など不測の事態によって、全面的な見直しを余儀なくされ、一時、作業を中断いたしました。

平成6年7月に、あらためて、教科書の副教材として、また2級建築士の受験対策として活用できる内容に執筆計画を見直し、教科書の刊行に間に合うよう平成7年度末刊行を目指し執筆編集作業を進め、本年3月に刊行いたしました次第です。

以下に、「建築法規学習ノート」の構成概要を記載いたします。

書名：「建築法規学習ノート」

編者名：東日本建築教育研究会

発行者：株式会社市ヶ谷出版（販売元：実教出版株式会社）

目次：第1章 建築法規の概要
第2章 単体規定
第3章 集団規定
第4章 制度規定
第5章 その他の関連法規
演習問題

内容構成：各章の各項ごとに〔例題〕（解答）と〔問題〕を、各章末には章末問題を設けた。

巻末には、2級建築士の受験対策模試として25問の演習問題を設けた。
本文は、図説を中心に文字や図版を大きく、簡素にして平易な解説を心掛けた。

本書は、「建築士の資格への道案内として有効に活用していただきたい」旨の佐藤 哲教材委員長のまえがきにもありますように、単に教科書の副読本的な内容にとどまることがないように工夫いたしたつもりです。ご一読、ご活用いただければ幸に存じます。

○研究課題「建築史の学習指導法」の取り組みについて

さて、建築法規に続きまして、建築計画に組み込まれております「建築史」につきまして、本年度からその指導法の研究課題に如何に取り組むか、本年7月都立蔵前工業高校において、本年度第1回計画分科会・委員会の話し合いをもちました。

建築計画の教科書のなかで建築史の占める割合は、2割に満たない約50頁ときわめて少なく、限られた単位のなかでどのように工夫されているのか、会員校の実態調査を手初めに進めていくことを、指導法の検討のより所としたいとの結論を得ました。

本年7月末、県立神奈川工業高等学校で開催されました夏期研究協議会におきまして、参加各校の会員の皆様を通じて建築史担当の先生方に以下の調査をお願い申し上げます。

【調査事項】

- 1) 建築計画の履修単位数と履修学年。
- 2) 建築計画の履修単位の内、建築史に割く履修単位又は履修時間概数。
- 3) 建築史の学習指導について
 - ①副読本を使用していますか。
 - ②プリントなどの資料を使用していますか。
 - ③視聴覚器材を使用していますか。
 - ④上記以外で学習指導上、工夫していることがありますか。
- 4) 課題研究における「建築史」に関するテーマについて（過去、現在を含む）
 - ①模型製作等「作品製作」に関する「建築史」関連テーマを挙げて下さい。
 - ②「調査研究」に関する「建築史」関連テーマを挙げて下さい。
 - ③「作品製作」・「調査研究」以外の「建築史」関連テーマを挙げて下さい。
- 5) 課題研究以外の実習・製図等の教科で「建築史の学習」に関わる取り組みがありますか。

これは、学習指導要領の改訂に基づく、教科書「建築計画」改訂版の中で「建築史」について各校での取り扱い状況や、関連教科における取り組み状況等につきまして実態の把握を目的といたしております。一校でも多くの回答を得たいと願うところです。

夏期研究協議会の参加校に加えまして、さらなる回答をお寄せいただきたく、誌上をお借り致しまして、お願い申し上げます。

尚、回答につきましては、御答えいただける項目だけで結構です。（本誌掲載回答票を複写ご活用いただければ幸にと存じます。）

『建築史の学習指導』に係わる調査回答票

【送信先】 F A X : 0465-37-5425

神奈川県立小田原城北工業高等学校・建設科・大庭孝雄

(〒250 神奈川県小田原市栢山200

TEL : 0465-36-0111~0112)

【送信元】	学校名	担当ご氏名	
1) 建築計画の履修単位と履修学年	単位 学年	2) 建築史に割く履修単位又は履修時間概数	単位 時数
3) 建築史の学習指導について	① 副読本を使用していますか。 どのような本ですか。		
	② プリントなどの資料を使用していますか。 どのような資料ですか。		
	③ 視聴覚器材を使用していますか。 どのような利用をされていますか。		
	④ 上記以外で学習指導上、工夫されていることがありますか。		
4) 課題研究における「建築史」に関するテーマについて（過去、現在を含む）			
① 「作品製作」に関する「建築史」関連テーマ			
② 「調査研究」に関する「建築史」関連テーマ			
③ ①・②以外の「建築史」関連テーマ			
5) 課題研究以外の教科での「建築史の学習」			

7. 製図分科会報告

東京都立墨田工業高等学校 古賀 昌之

平成7年9月より平成8年8月までの1年間の製図分科会の活動状況の概要を報告いたします。

平成7年9月19日（火） 平成7年度第2回委員会（都立墨田工高）

1. 平成7年度総会（千葉大会）・研究協議会分科会の報告
2. 平成7年度の分科会研究テーマの検討

千葉大会製図分科会の研究協議会に出席された先生に持ち寄っていただいた「自校の製図教育課程の実施状況」のアンケート調査の資料（31校分）を基に本分科会委員校の状況について順次発表報告し合い自由討議・意見の交換を行った。その積み重ねの中から研究テーマを設定していくことを決める。

平成7年10月19日（木） 第3回委員会（都立墨田工高）

1. 平成8年度総会での各分科会共通テーマは「教育課程の単位数減下における科目の指導法について」となっているが、製図分科会では「建築設計製図の到達目標はどうあるべきか」という視点から協議を進めていくことにし、前回に引き続き委員校の状況を発表し合い意見交換を行った。

主な内容：課題の精選，指導内容，指導体制，指導の目標，指導の工夫点など。

2. 従来，製図分科会の研究協議会の中でCAD教育を取り上げてきたが，製図分科会の中に「CAD小委員会」（仮称）を作りCAD教育検討の受け皿，情報交換の場の任を負っていくことを決める。
3. 第14回製図コンクールの運営について詳細を協議する。

平成7年11月17日（金） 第14回製図コンクールの運営に協力（都立蔵前工高）

11月30日（木） //

12月8日（金） //

平成8年1月18日（木） 第4回委員会（都立蔵前工高）

1. 第14回製図コンクールの反省および第15回製図コンクールの実施要項の検討（製図コンクール委）
2. 各学校の製図教育の状況発表，意見交換・協議

平成8年2月15日（木） 第5回委員会（都立墨田工高）

1. 前回に引き続き委員各校の製図教育への取組み状況発表と問題点や今後の課題について協議。

東海大会の研究協議分科会報告では，9月以降委員会で協議してきた内容を整理・

報告することにし、そのためのまとめの形式・アンケート内容を検討した。

平成8年3月15日（金） 第6回委員会（都立墨田工高）

1. 総会報告資料のため、新教育課程の単位数減下における製図指導にどのように取り組んでいるか、委員校を対象として次の内容を含んだアンケート調査票を検討作成した。

1. 専門科目の単位数
2. 建築設計製図の到達目標
3. 課題設定にあたっての考慮点
4. 生徒の興味・意欲喚起のための工夫点
5. 「模写」「設計」の授業の進め方・指導法の工夫点
6. 自校の「建築設計製図」教育の課題
7. 各学年の指導のねらいと目標、課題・内容、時間外での対応等
8. 新課程実施上の問題点

2. 昨年の千葉大会で関心の高かったCAD教育に関して本年度は、各学校でこれまでに実施または研究されたCADの作品を募集し、本年度東海大会会場にて紹介することを決め要項の作成にかかった。指導担当者の情報交換の体制づくりの具体的な一歩を踏み出すことを決める。

作成した募集要項は、事務局発送の総会案内等の資料に同封発送した。

平成8年4月26日（金） 平成8年度第1回委員会（都立墨田工高）

各委員が持ち寄った自校の製図教育に関するアンケートを最終検討。

2枚にまとめた各学校の製図教育の現況資料をそのままの形で報告資料とすることを決めた。

平成8年6月6日 第46回東海大会

研究協議会にて分科会報告で委員校11校の分の資料を配布、報告。

大会会場にて応募のあった8校23のCAD作品を展示した。作品の募集、整理、展示資料準備作成は菊池委員（県立市川工）が行った。今回が初めての作品展示紹介であったが、今後もCADを指導されている先生方の協力のもと充実を計っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

製図分科会 —CAD作品の展示会について—

製図分科会・CAD小委員会

◇初めてのCAD作品募集のころみ……前年度の千葉大会では、「製図」の単位数減や製図能力の問題などを背景に、次々に登場してくる新たなCADシステムの導入や展開方法のありかたなど、新たな方策を求める声が多く聞かれた。製図分科会では、これらを受けて問題解決への参考資料を用意したいと考え、その企画の一つとして実践校に向けての「CAD作品の募集」が行われることとなった。今回の募集では、実施した授業や時間、CADシステム、テーマなど、特に条件を設けず自由に応募していただくようお願いをし、出力サンプルの提出を求めるとともに、データファイルの提出を求めた。ご提出いただいた各校へは了解を得た作品集をまとめ、データファイルの形で配布する予定でいる。

◇作品の展示から……初めてのエキシビジョンであったが、無事に愛知大会の会場に作品を展示することができた。やはり関心の高さを示すように、多くの先生方が作品集を手に取り詳しく見入る光景もあったとうかがっている。担当としては胸をなで下ろすような感にあるが、一般に製図作品はその仕上がりの程度で判断されることが多いのでその点に気がかりなものを残している。作品と一緒に提示したデータ票を見ていただけたならおわかりのことと思われるが、今回のCAD作品に関しては、システム特性や準備段階の長短、また作図時間など制約条件が多々あったことを承知いただきたいのである。さらには、完成を目指す途上にどのような観点から指導がなされたか、あるいは作図対象から関心を広げて、「計画」上の内容やデザインの原理、ディテール、伝統的な寸法体系の存在など、関連する単元への発展があったことを付記し、ご賢察をお願いしたい。当分科会としては、今後も作品を募集するとともに、具体的なアドバイスを集積し、CAD製図の取り扱い方や指導法の工夫などへ展開していけたらと考えている。

年度当初の慌ただしい中での呼びかけにも関わらず下表に示す8校から23作品のご応募をいただくことができました。作品をご応募していただいた各校の担当の先生方には、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

CAD作品応募一覧

平成8年6月
東日本建築教育研究会製図分科会

学 校 名	課 程	学 年	氏 名	作 品 名	使用ソフト	実 施 科 目
青森県立南部工高	全	1		土台まわり詳細図(課題)	※1	工業基礎
		2	松原 育子	木造平屋建て住宅	※2	建築製図
		3	赤坂 進	RC店舗付き2階建て住宅	※2	建築製図
		3	赤坂 進	RC2階建て集合住宅	※2	建築製図
		3	小笠原教人 他	東大寺南大門	※1	特別活動
埼玉県立川越工高	全	3	湊谷 武名 他	木造住宅 他	※3	実 習
千葉県立市川工高	全	3	加藤 俊明	公共図書館(私と卒業設計)	※4	実習(卒計)
		3	鈴木 敦子	自然の家 PARTII	※4	クラブ活動
		3	宮下 陽介	矢印の家	※4	クラブ活動
神奈川県立藤沢工高	全	3	佐藤 和幸	木造平屋建専用住宅	※5	課題研究
		3	藤岡 隆	木造平屋建専用住宅	※5	課題研究
		3	奥泉 吉由	木造平屋建専用住宅	※5	課題研究
		3	下石 基寛	木造平屋建専用住宅	※5	課題研究
富山県立富山工高	全	3	井沢 幸	地方都市に建つレストラン付中規模事務所	※6	製 図
		3	松田 恵子	富山駅北地区再開発計画透視図	※6	製図(卒課)
		3	西本 貴	婦中町近郊集合住宅団地計画(集合住宅A)	※6	製図・実習(卒課)
		3	幸田 美幸	新越中の家	※6	製図(夏休み課題)
金沢市立工高	全	3	奥村 太一	図書館	※7	製図・実習
		3	貝沼 紀子	コミュニティセンター	※7	製図・実習
		3	二口 雅子	二階建専用住宅	※8	情報技術I
岐阜県立岐南工高	全	3	佐藤 貴行	木造2階建専用住宅設計図	※9	課題研究
		3	東山 慶文	木造2階建専用住宅設計図	※9	課題研究
関市立関商工高	全	3	小谷 和弘	木造2階建専用住宅	※10	建築実習

使用ソフト ※1: DYNACAD ※2: Archi-TREND11 Ver3.0 ※3: アーキブレイン200II Ver2.0
 ※4: Archi-TREND11 Ver4 ※5: JW-CAD ※6: DRA-CAD2 VersionX ※7: ダイナ
 パース VerC ※8: AutoCAD R12J ※9: MUTOH ArchiCraft MD ※10: 3D-VISION
 mark II

8. 構造分科会報告

東京都立田無工業高等学校 本間 正明

平成7年10月より平成8年9月までの1年間の構造分科会活動状況の概要を報告します。

平成7年10月19日(木) 第3回委員会(県立神奈川工高)

1. 平成7年度総会(千葉大会)・分科会報告および総括

- ① 「建築施工技術者試験」に関する構造関係資料について、その必要性からも今後の実施内容に合わせて継続して検討を進める方針を確認。
- ② 「興味湧く構造関係の課題研究」について、生徒の関心が少ない構造関係の課題研究を、より身近な取り組み易い内容で扱える研究テーマ設定に向けて今後とも検討を要すことを確認。

2. 平成8年度総会(東海大会) テーマ「単位減に伴う教科指導法」について

構造分科会における研究方針検討

- ・委員各校での単位数及び進度について情報交換。
- ・学校により生徒の進路傾向が異なる。専門科目の履修単位数についても相違がみられる。(専門科目と普通科目との選択等)
- ・限られた時間内でいかに興味を持たせ、理解しやすい教科指導を行うべきかについての検討。
- ・構造：現場体験実習(神奈川工、葛西工等の報告あり。) VTRの活用。
- ・設計：建築物との関連をとりながら力学計算の興味を得させる指導。

以上の意見交換から、限られた指導時間で生徒の理解をより深めるために、「建築構造」と「建築構造設計」との関連性を明確にすることから、木構造骨組図の中での力学との関連をチェックする方針を決定。

3. 神奈川工高新築校舎見学

平成7年11月28日(木) 第4回委員会(安田学園)

1. 平成8年度総会(東海大会) テーマ「単位減に伴う教科指導法」について
木構造骨組図の中での力学との関連をチェックしたものについて検討。

- ① 実習等で作製した模型を用い、力学との関連を示し、興味を持たせる。
- ② 構造設計の主要単元と木構造の力学的な関連(宇都宮工：斉藤案)。

以上の2項目について内容を検討。

2. 今後の研究方針の再確認

前項②の方針で再度検討を進めることとする。

3. 現場見学について(候補について情報交換)

平成8年2月1日(木) 第5回委員会(葛西工高)

1. 平成8年度総会テーマ「単位減に伴う教科指導法」について

今後の研究方針の再検討。

前回の方針に添って検討を進めた結果、木構造骨組図の中での力学との関連については、一つの骨組の中に含まれる力学的要素が複数存在するため、指導上困難かつ誤解を生む危険性があり、再度方針を検討することとした。

★ポイント 生徒の生理的に近い拒否反応をいかに意欲を持たせ自発的に取り組めるように指導するか。

★対応 設計の基本事項(単元)に合う適切な模型・モデルを提示(興味を持って取り組めるようにするため)し、合わせて構造との関連についても提示する。

以上の内容について、各自工夫していること、及び考慮されることについてまとめた資料を作成する。

2. 現場見学:新国立劇場(第2国立劇場)に決定。

3. 構造部会選出の標準テスト作成委員、製図コンクール委員の選出について。

平成8年2月9日(金) 平成7年度見学会

関東地方建設局営繕部 営繕監督室長 成田修一氏のご配慮をいただき、「新国立劇場建設工事現場」の見学を参加数19校33名で行うことができました。

校務多忙かつ厳寒の時期にもかかわらず多数の参加を得、無事、有意義な見学が出来ましたことを感謝しております。

また、当日は、竹中・フジタ・西松・ナカノ・シャール特定共同企業体の皆様には、工期の迫る多忙の中にもかかわらず、行き届いたご配慮と説明をいただき感謝しております。

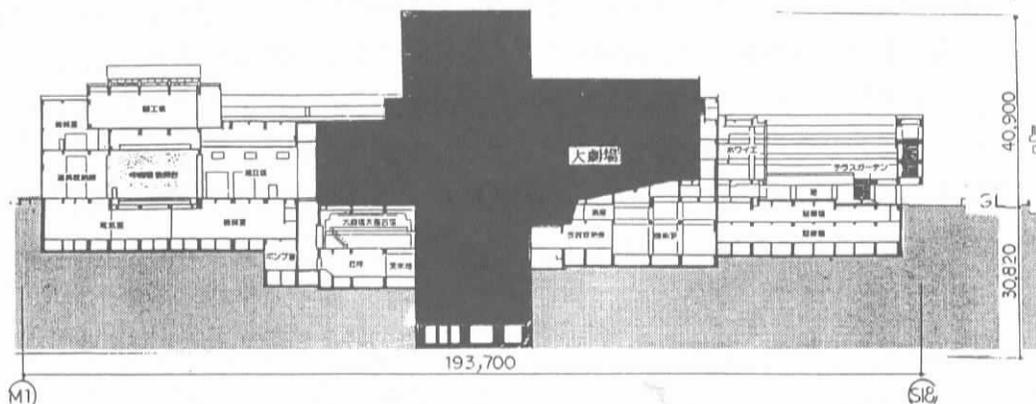
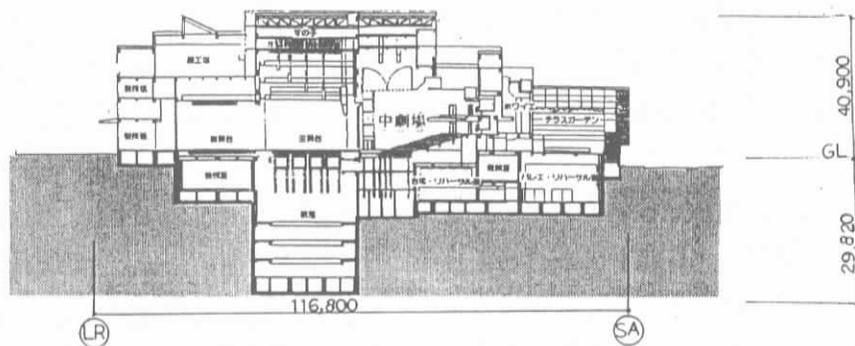
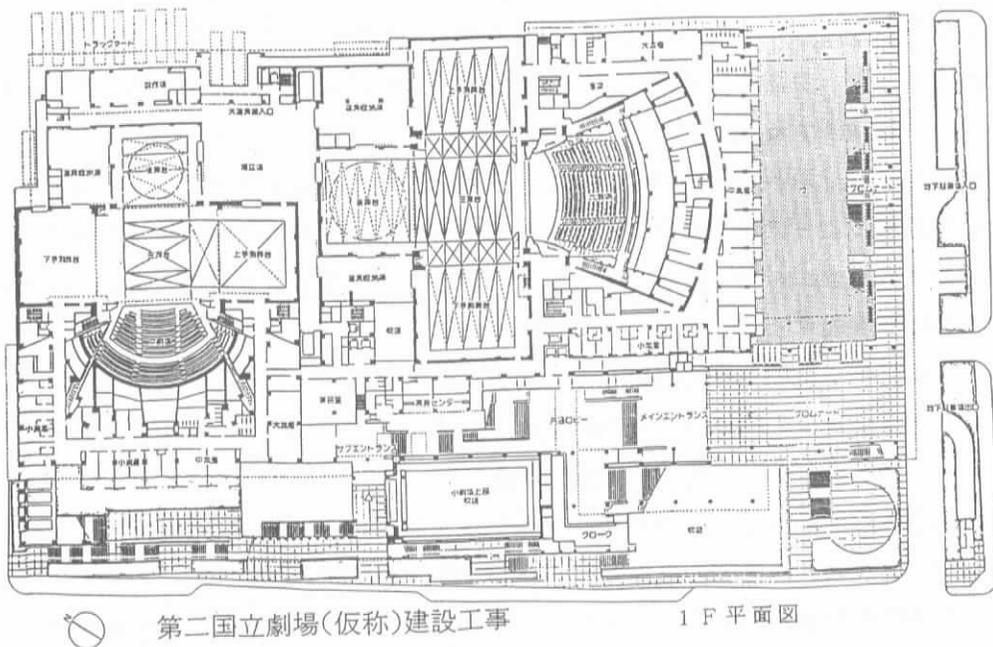
現場は、建築面積約2万平米、延床面積約7万平米、地下4階、地上5階の劇場であり、各部所毎、複雑かつ高度の精度を要する工事が多いため、工期短縮のため幾つもの作業が同時進行せざるを得ない状態で、それらに係わる作業員も多く、相互連絡・調整を主とする工程管理も複雑を極めているとのこと。また、これらの解消を含め、NTT電話回線と事務所内に設けた交換器とのシステム化により、随所に設けた電話による通信とし、従来形のスピーカーによる呼び出し放送もなく爽やかな現場に感じられた。

新国立劇場として、また主としてオペラ、バレエ等の公演が出来る東洋一を誇る大劇場の設計(平面図参照)は、主舞台と同規模の上・下手側舞台、後舞台の4舞台を持ち、またフルコンピュータ制御による最新の舞台装置、前後10度の傾斜が可能な主舞台となっている。

その他、中・小劇場、劇場関係施設、研修、調査、情報、管理関係の諸施設においても格段の設備を備え、国立劇場に相応しい規模の建物であることに感銘した。

また、内・外装仕上げにも十分な配慮がなされ、ことにコンクリート打ち放しの柱面に杉の木目を表すため、それぞれの片枠に杉板を用いている点には、目を見張るものがあった。

その他、音響システム関係等に関する配慮等、実り多い見学会であった。



平成8年3月5日(火) 第6回委員会(葛西工高)

1. 平成8年度総会テーマ「単位減に伴う教科指導法」について
今後の研究方針の再検討。

★興味を持って取り組めるようにするため、各自工夫していること、および考慮されることについてまとめた資料について検討。

a案：製図室にて実体験を通してのトラス図解法(クレモナ図)

b案：円形パネルを用いた力のモーメント指導

c案：変形単純梁モデルを用いた力のモーメント指導

d案：中学校理科用VTR(作用と反作用)を活用した“力”の指導

e案：漫画“構造力学”を参考としたイラストを用いた指導

f案：大学の実験室見学を通しての指導

g案：具体例を通してのわかりやすい(計算容易な)断面設計から指導

以上の各案について検討の結果、g案を基軸に下記要項を踏まえ再度検討する。

〔ポイント〕限られた指導時間で構造力学について興味を持たせ、教科の目的意識を高める。

i 従来の指導計画(教科書の目次)の枠を外した指導手順について考える

ii 身近な具体例を通して断面設計までの基本について考える

〔例〕引張材の設計：①荷重に対して安全な引張材の太さ(断面積)を求めるには、
②いくらの荷重まで安全か、③材料の質(強度)の違いは、について力学的基本を盛り込み、考えさせる。

その他、曲げ材の設計、圧縮材の設計、基礎(圧縮と曲げ)の設計等のいずれかについての指導計画を作成する。

2. 構造部会選出の製図コンクール委員決定…榎本(安田学)、今井(前橋工)

平成8年4月18日(木) 第1回委員会(蔵前工高)

1. 平成8年度総会テーマ「単位減に伴う教科指導法」について

単位減でどの程度指導内容を省略するかについても考慮。教科としての最小達成目標をどこにおくか再度検討。

- ・2級建築士等の資格取得可能な指導内容とする。
- ・力学の基本についての学習がなされればよい。
- ・身近な具体例を示し、設計に関する興味を持たせながら基本を理解させる。

2. 上記を参考に「年間指導計画表」「作成主旨」「具体的な指導案」を作成する。

身近な具体例(a案)、引張・圧縮材の設計(b案)、曲げ材の設計(c案)、その他(d案)

平成8年5月14日(火) 第2回委員会(蔵前工高)

1. 平成8年度総会テーマ「単位減に伴う教科指導法」に関する「年間指導計画表」「作成主旨」「指導案」について検討。

2. 上記についてまとめたものとして、総会資料作成

9. 施工分科会報告

神奈川県立神奈川工業高等学校 山崎 敏弘

施工分科会は、年5回程度の委員会を各委員の学校を順番に会場として交流を計りながら開催しています。今回は、平成7年9月から平成8年8月まで、1年間の委員会と東海大会総会・研究発表、夏期研究協議の活動状況を報告します。

平成7年10月27日（金）～28日（土） 平成7年度第3回委員会（栃木県立宇都宮工高）

1. 平成7年度の研究課題の検討

- ・ 建築施工の指導法 単位減の中での「建築施工技術者試験」の指導法について「建築施工」の授業を有効に・わかりやすく進めるために、教科書「建築製図」の各製図例の矩計図・詳細図に、材料や施工法の内容を補足した資料を作成する。その資料を関係授業で活用するようにする。
- ・ 「課題研究」の実施にともない、「生徒の建築現場実習」が多くの学校で導入されつつある。その実態調査を“アンケート”で行うことにする。

2. 平成8年度の夏期研究協議会について

- ・ 施工分科会は、過去4回、準教科書「建築実習2」の実習内容を授業でわかりやすく出来るように、実技の研究内容で開催してきました。

今回は、先生方の要望・アンケートより、①建築積算の指導法、②建築施工図の指導法、③建設現場見学について行うことにする。

3. 理事会、資格取得委員会の報告（平成7年9月21日 都立葛西工業高校）

- *10月27日（金） 小嶋委員（宇都宮工高）の手配により、鬼怒川観光ホテルに宿泊、親睦・教育懇談会を行なう。
- *10月28日（土） 財日光社寺文化財保存会技師岡部信夫氏の講師で“日光東照宮”の見学を行なう。

平成7年12月7日（木） 平成7年度第4回委員会（日工大付東京工業高校）

1. 平成7年度の研究課題の検討

- ・ 「建設施工の指導法」について、内容の検討並びに担当委員を決める。
- ・ 「生徒の建築現場実習の実態調査」について、アンケート内容を検討する。

2. 平成8年度の夏期研究協議会の内容について検討する。

平成8年3月11日（月） 平成7年度第5回委員会（神奈川県立神奈川工業高校）

1. 平成7年度の研究課題の検討、担当委員提出の資料を検討する。

2. 平成8年度の夏期研究協議会の内容について検討、決定する。

- ① 日 程 平成8年7月29日（月）～30日（火）
- ② 会 場 神奈川県立神奈川工業高等学校

- ③ 内 容
1. 建築積算の指導法について、講師 川村積算常務 山本茂氏
 2. 建築施工図の指導法について、講師 シニマックプランナーズ社長 望月治氏
 3. 建築現場見学場所、横浜みなとみらい21中央地区24街区新築工事

平成8年4月22日（月）平成8年度第1回委員会（埼玉県立大宮工業高校）

1. 平成7年度の研究課題について最終の検討、印刷・製本・発送の検討をする。
2. 平成8年度の夏期研究協議会について検討する。
3. 平成7年度の会計報告、平成8年度の当分科会委員の確認、製図コンクール委員を決める。

平成8年6月6日（木）“東海大会”にて、研究課題の報告をする。

次に、研究課題の考え方と内容について記載する。（詳しくは、資料No.31参照して下さい）

1. 建築施工の学習指導法について

「建築施工技術者試験の指導法についておよび単位減にともなう建築施工の指導法について」

授業を能率的に、理解しやすくするためには、「施工」だけでなく他の科目と総合的に教授することが大切であると思われる。

そのため、教科書「建築設計製図の課題図」に、施工法を中心に材料・構造など、また、「施工技術者の資格試験」にも参考になるように検討し、できるだけ多くの資料を掲載した。

* 参考例

- ① 2階建専用住宅設計図 カナバカリ図（平成7年実教出版送付資料）
- ② 商店設計図 カナバカリ図
- ③ 商店設計図 ラーメン配筋図
- ④ 店舗付事務所設計図 カナバカリ図
- ⑤ 店舗付事務所設計図 各部詳細図

2. 「工業高校生の建築現場実習について」アンケートの報告

平成6年度からの学習指導要領において、産業現場における実習の重視および、建設業における若年者の入職促進のため、労働省・建設省・文部省の3省が「現場実習」の実施をはかっている。

すでに、某都道府県においては、教育委員会・建設業界・学校が内容の検討を終え実施している。そして、その成果が報告されている。

しかしながら、実施に当たり多くの共通理解しなければならない点があるため、検討中の学校が多い。

そのため、各学校の協力を得てアンケートを実施しました。参考にして頂ければ幸いです。

平成8年度夏期研究協議会 報告

今年度の夏期研究協議会は、施工分科会が担当で開催された。ご多忙・酷暑にもかかわらず、56校・69名の先生方が参加された。

次に、その内容を報告する。

1. 期 日：平成8年7月29日（月）・30日（火）
2. 会 場：神奈川県立神奈川工業高等学校
3. 内 容：建築施工の指導法について

第1日目 7月29日

- 受 付 9：30～10：00
1. 開講式 10：00～10：30
- 1) 開会のことば 東日本建築教育研究会副会長 佐藤 哲
 - 2) 会長あいさつ 東日本建築教育研究会 会長 北島 敬己
 - 3) 会場校長あいさつ 県立神奈川工業高等学校校長 久保倉 清
 - 4) 日程概要説明・その他
 - * 計画分科会 大庭主査より連絡
建築計画における「建築史の学習指導」に係わる調査について
 - * 土田副会長より連絡
建築施工技術者試験の実施について
 - * 施工分科会 山崎主査より役員・主査の紹介、日程の説明
2. 建築積算の指導法について 10：30～12：30
(株)川村積算常務取締役 山本 茂
- ・「建築数量積算基準・解説」書を使用しての講義
 - ・積算授業の参考例としての資料提示とその解説がなされた。
- * 昼 食 12：30～13：15
3. 建築施工図の指導法について 13：15～16：45
(有)シニマックプランナーズ建築研究所代表取締役 望月 治
- ・「施工図とは」についての講義
 - ・教科書の「製図例9 公民館設計図」を参考
「外部タイル割付の検討」の講義がなされた。
- * 教育懇談会 17：00～19：30

第2日目 9月30日

受付 (集合場所: JR根岸線・桜木町駅改札口前)

9:20~9:40

1. 建築建設現場見学

10:00~12:00

みなとみらい21中央地区24街区新築工事

T・R・Y90工区共同企業体

- ・ビデオによる説明
- ・現場見学
- ・概要説明及び質疑応答

2. 閉講式

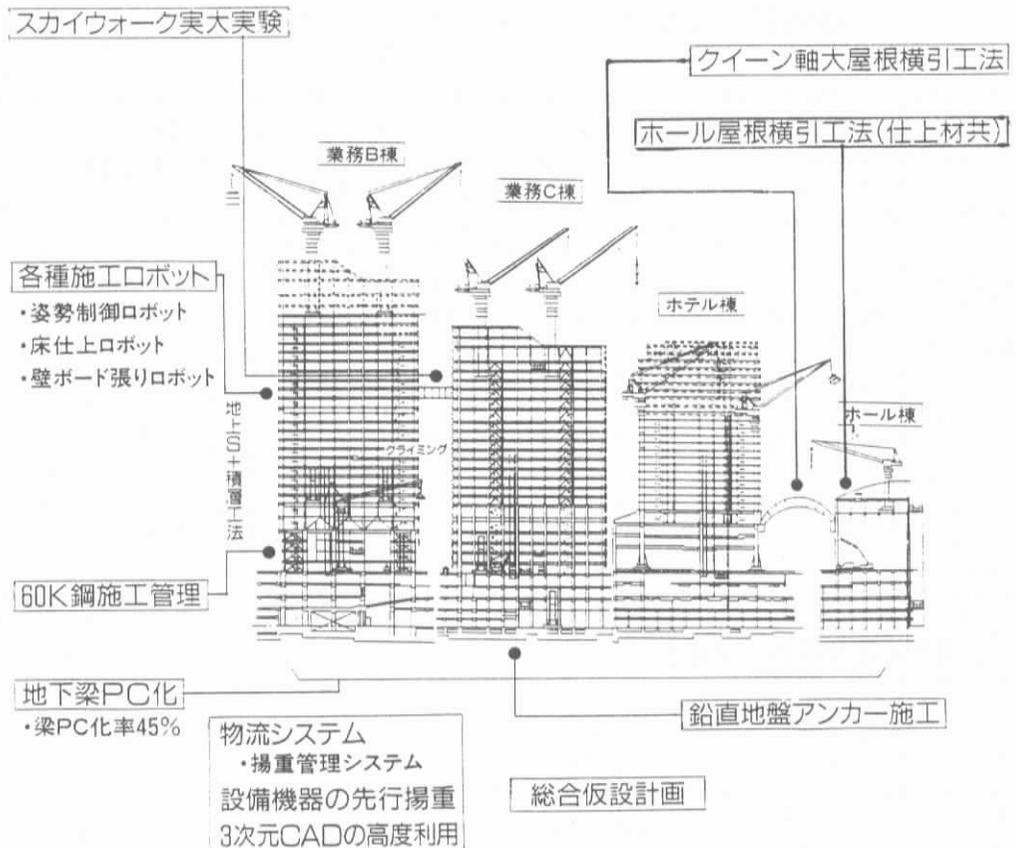
(於 見学場所) 12:00~12:10

1) 閉会のあいさつ

東日本建築教育研究会副会長 土田 裕康

2) 会計報告・諸連絡

施工分科会



10. 製図コンクール運営委員会 (第14回 審査結果報告)

東京都立蔵前工業高等学校 土田 裕康

第14回（平成7年度）製図コンクールには会員校および、会員以外の諸先生方のご協力を得て優秀な作品を多数応募いただきありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご支援をお願い申し上げます。

なお、第14回の審査結果につきましては、入賞者一覧表および課題3の金賞図面を住宅建築の専門月刊誌である「住宅建築」（建築資料研究社刊）の平成8年2月号に掲載しました。

1. 応募校数

77校（全日制 73校, 定時制 4校）

東（会員校） 全日制 63校 定時制 4校

西（会員校外） 全日制 10校 定時制 0校

2. 応募作品数

	学校数・作品数			全日制・定時制の別			
課題 1	東	59校	114点	全 57校	111点	定 2校	3点
	西	9校	17点	全 9校	17点	定 0校	0点
課題 2	東	54校	101点	全 51校	98点	定 3校	3点
	西	9校	17点	全 9校	17点	定 0校	0点
課題 3	東	38校	65点	全 35校	61点	定 3校	4点
	西	4校	6点	全 4校	6点	定 0校	0点
計	320点（東 280点・西 40点）						

3. 各課題応募作品数・学校数

	1点	2点
課題 1	5校	63校
課題 2	9校	54校
課題 3	12校	30校

4. 都道府県別応募数・学校数 平成7年 (14回)

都道府県	会員 校数	課 題 1		課 題 2		課 題 3	
		学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数
1 北海道	17(5)	0	0	0	0	0	0
2 青 森	6	3	5	4	8	3	5
3 岩 手	4	3	6	3	6	2	4
4 宮 城	4(1)	1	2	1	2	0	0
5 秋 田	5	1	2	2	2	0	0
6 山 形	4	2	4	1	2	0	0
7 福 島	7(1)	1	2	1	2	0	0
8 栃 木	6(1)	3	6	3	6	1	2
9 群 馬	8(2)	4	8	0	0	1	2
10 埼 玉	6(1)	5	10	4	8	2	3
11 茨 城	5	1	2	3	6	1	2
12 千 葉	6(1)	2	4	2	4	1	2
13 東 京	13(3)	9	17	7	13	6	12
14 神奈川	11(4)	2	4	2	4	1	1
15 山 梨	4(1)	3	6	3	6	3	6
16 新 潟	3	1	2	0	0	1	1
17 長 野	5(1)	2	4	2	4	1	2
18 富 山	2	0	0	0	0	0	0
19 石 川	5(1)	0	0	0	0	0	0
20 福 井	2	0	0	0	0	0	0
21 静 岡	9(3)	2	4	2	4	0	0
22 愛 知	9(1)	5	12	5	10	6	10
23 岐 阜	7(1)	6	11	6	11	6	9
計	148	57	111	51	98	35	61
定時制	(26)	(2)	(3)	(3)	(3)	(3)	(4)
24 西日本	117	9	17	9	17	4	6
三重<1>・大阪<1>・兵庫<2>・広島<3>・愛媛<3>							
合 計		68	131	63	118	42	71

() 内の数字は定時制

5. 入賞者一覧表

課題 賞	課 題 1	課 題 2	課 題 3
金 賞	豊橋工業高等学校 前田真臣	豊橋工業高等学校 春田佳宣	武蔵越生高等学校 宮崎俊介
銀 賞	高崎工業高等学校 黒崎隆浩 松山工業高等学校 近藤岳志 碧南工業高等学校 菅原大輔	宇都宮工業高等学校 高山知草 一宮工業高等学校 橋川 貴 市川工業高等学校 鈴木善暁	龍野実業高等学校 丸尾嘉子 高山工業高等学校 富本美香 豊橋工業高等学校 夏目浩二
銅 賞	昭和第一学園高等学校 平石清子 日本工業大学付属東京 工業高等学校 加藤英明 兵庫工業高等学校 佐藤隆造 千葉経済大学附属高等学校 高橋章郎 前橋工業高等学校 木暮美代 可児工業高等学校 可児直基 前橋工業高等学校 阿部真貴 大船渡工業高等学校 柏崎千恵	山形工業高等学校 海藤美穂 市川工業高等学校 太田久信 一宮工業高等学校 各務 康 修善寺工業高等学校 山田隆之 久慈工業高等学校 畑中真紀 甲府工業高等学校 清水謙二 龍野実業高等学校 佐川 晃 神奈川工業高等学校 杉村亜希子	弘前工業高等学校 兵藤貴子 向の岡工業高等学校 伊藤 輝 十和田工業高等学校 佐々木由美子 峡南高等学校 横山信也 愛知工業高等学校 板坂 論 春日部工業高等学校 小山祐理子 津工業高等学校 宮村 亮 市川工業高等学校 岡地貴志 鶴見工業高等学校 定時制 秋山文男
奨励賞	神奈川工業高等学校 定時制 倉野浩志	神奈川工業高等学校 定時制 中山周平	前橋工業高等学校 定時制 小室雄志

6. 審査講評

審査は課題ごとにチェックポイントを定め、減点方式により複写図の表題欄をカットして、厳正かつ公平に実施しました。

課題1は、参考図を製図の基本（線の太さの区別・文字の大きさなど）に従って、忠実に模写するものであり、ワープロによる文字や型板による数字を複写した作品は入賞作品から除外しました。

課題2は、参考図を模写する部分（平面・立面図）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図・断面図）の内容であり、断面図の表示内容と造園計画（表現力）が入賞のポイントになりました。

課題3は、設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力などトータルなもので審査され、入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが優先されました。

尚、入賞作品のなかにも減点方式であるため、多少の記入もれや未熟なミスのあるものもあります。

したがって、金賞・銀賞作品といえども、未熟なミスがあり甲乙つけがたい作品であるため、未熟なミスの最も少ない作品が上位になりました。今後とも生徒への適切なご指導をお願い申し上げます。

7. 第14回（平成7年度）審査委員

塩澤 泰（関東第一高）	古賀 昌之（墨田工）
酒井 健一（向の岡工）	福島 勝（日工大付東京工）
角田 勝男（神奈川工）	菊池 貞介（市川工）
金井 孝雄（高崎工）	長島 佳久（春日部工）
田口 学（向の岡工定）	小沢 宏（墨田工）
大間 俊彦（関東第一高）	丸山 悟（葛西工）
榎本 吉晃（安田学園）	西村 文雄（川越工）
堀口 武（武蔵越生高）	増淵 政幸（真岡工）
岩上 成輝（川崎総合科学高）	橋本 政美（昭和第一学園）
	土田 裕康（蔵前工）

11. 資格取得検討委員会報告

栃木県立宇都宮工業高等学校 岡田 義治

1. 「平成8年度建築施工技術者試験」(第1回)の実施が決定

平成5年6月以来、東日本建築教育研究会に「資格取得検討委員会」を設置して取り組んできた標記の試験は、本年12月15日(日)と決定しました。今年度は、すでに先行している「土木」「造園」に「建築」と「管工事」を加え、4試験が同一会場(全国50都市)で実施されることになりました。

この試験の実施に至る経緯につきましては「工業教育」や全国高等学校建築教育連絡協議会からの文書で逐次報告をいたしました。関係諸機関のご理解とご支援に加え、在学中に取得できる資格がない建築系の生徒に、この試験を通して何とか学習意欲を向上させるインパクトを与えたい、という全国の先生方の真剣な取り組みが実を結んだものと思います。特に資格取得検討委員会の委員の先生方には、全国的な調査や模擬試験などの企画・実施報告書のとりまとめ等、多大のご苦勞を頂きました。感謝申し上げます。

2. 受験準備への支援

すでに試験の実施機関から「試験の案内」が届けられ、9月17日～30日に申込みの受付が行われ、「試験科目、試験基準及び試験方法」が示されました。最近では、全国の先生方から指導用の参考書や生徒用の問題集に関する問い合わせが多くなりました。

そこで本会としては、関係機関に参考資料の提供等のお願いをして参りましたが、建築施工技術者試験の受験準備講習会や参考書の刊行に多年の実績をもつ(財)地域開発研究所の建築施工管理技術研究会から次のような支援の申し出を頂きました。

- (1) 教職員用の参考図書「建築施工管理技術テキスト」「2級建築施工管理技術検定試験問題解説集録版」を各学校2冊ずつ無料で配布する。
- (2) 生徒用の教材「2級技術検定試験問題抜粋(150問程度)」を受験生徒人数分、無料配布する。

3. 本会の対応

支援の申し出を受けて、東日本建築教育研究会の資格取得検討委員会は、同会の各都道府県理事に、ある程度の受験生徒を予想した数量の取りまとめを要請しました。(西日本工高建築連盟、中国・四国・九州の各地区建築教育研究会々員校へは全国高等学校建築教育連絡協議会の事務局を通して同様の連絡をいたしました。)その結果、全国の建築系学科設置校261校から生徒用教材7829部の申込みがありました。

4. 試験について

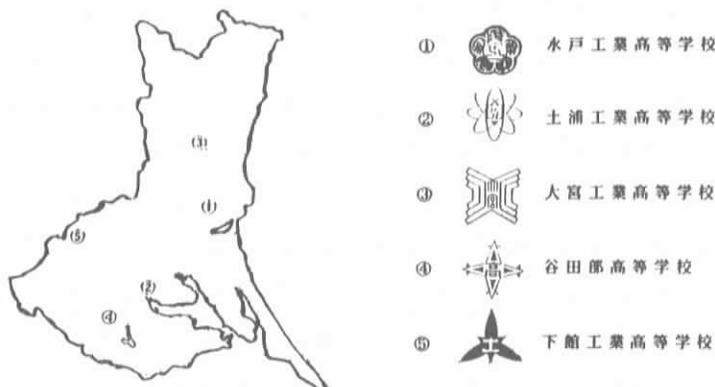
試験については「試験の案内」に記載されています。試験の水準は「2級施工管理技術検定学科試験」と同等とされていますが、高校の内容を考慮するよう要請しています。

12. 茨城県工業高等学校建築教育の現況

茨城県立大宮工業高等学校建築科 辻 昌良

1 茨城県の工業高等学校建築科の概要

茨城県には建築科設置高校が5校あり、そのすべてが県立です。



- 水戸工業高等学校は梅林で有名な偕楽園のある県庁所在地にあり、水戸駅より南に約5kmのところにあります。

工業高校としては歴史は古く、明治42年に創立され、87年の歴史と伝統を持っています。昭和23年土木科を建設科と改称、昭和37年建設科から土木科、建築科を分離し生徒定員数各40名。現在は工業化学科、機械科、電気科、情報技術科、土木科そして建築科の6学科が設置され、定員は960名で、県内の工業高校の中では、最も規模が大きく、校訓は至誠・勤勉・協同・敬愛・質実・剛健です。

進路先は、建築会社、設計事務所、専門学校、大学など、多方面にわたっています。卒業生の多くは1・2級建築士、建築施工管理技士の資格を取得し活躍しています。

部活動では陸上部・バスケット部等は県代表として、全国大会や関東大会で活躍しています。

- 土浦工業高等学校は北に関東の名山筑波山を望み、南に霞ヶ浦を眺める土浦の台地に白亜の校舎がそびえ、約960名の若人が勉学に運動に励んでいます。

昭和33年に創立され、昭和43年建築科1学級新設、昭和45年建築科1学級増、現在は機械科、電気科、建築科、土木科、情報技術科の5学科です。

生徒は県内各地域から選ばれた、誠実、朴とつそのままの「茨城っ子」で「実技・実学・自学自習」の校是にのっとり、「自立・独創・寛容・奉仕」の校訓にもとづき、広い視野に立って社会の発展に寄与する産業人を目指して日々努力しています。

卒業生の大半は2級建築士、木造建築士、2級建築施工管理技士に合格しています。

部活動は運動部の他に文化部として、機械、電気、建築、土木、情報技術の各科に研究部があります。

- 大宮工業高等学校は静駅（水郡線）の北北西2.7kmのところであり、昔、古墳があり、一騎山といわれ、歴史のある緑豊かな環境に恵まれています。

昭和49年に創立され、建築科、設備工業科、土木科、工業化学科の4学科で定員は480名です。

「勤労を尊び 創造をよろこび 誠実に今日を生きよう 責任を重んじ 努力をかさね たくましく明日を拓こう」の校訓にもとづき「工業に関する専門的知識と技術を習得させ、望ましい職業観を兼ね備えた工業人を育成する。」を達成するため、建築科では将来、建設会社で各種建築工事を担当する「建築施工技術者」や、建築設計事務所などでもっぱら設計図面や透視図を画いたりする「建築設計技術者」として活躍していくための、基本的な知識・技能・技術を身につける学習を進めています。

なかでも、三年間通して学習する「設計製図」と「実習」は、建築科の柱を構成しているものであり、建築に関するいろいろな実技を体験的に学習しながら、座学で学んだ知識をより確実なものにし、建築技術者としての望ましい態度や、安全に対する正しい知識を身につけさせます。

部活動は部員相互の親睦と融和を深めるとともに、健全な心身の発達をはかることをめざして、結果よりもそこに至る過程を重視するという共通理解のもと活動しています。

- 谷田部高等学校は樹齢300年の松並木や、杉の大木など沢山の樹木に囲まれ、一日中鳥のさえずりが聞こえる、緑ゆたかで静かなところではあります。

大正15年に創立され、校訓は協和・勤労・至誠です。

平成3年度から工業系の学科へと改編が行われ設備は本県随一です。

現在、電子機械科、情報技術科、建築デザイン科が設置され定員は590名です。

建築デザイン科ではCADを利用して、建築物を設計したり、建築の内部空間を企画、設計する技術者を養成します。

1・2級建築士、インテリア・コーディネータ、インテリア・プランナーなどの資格を取るための学力、技術力を身につけます。

2年次から、学科の枠を超えて学習でき、希望の資格がとれる選択科目制度を導入しています。

部活動ではウェイトリフティング部が昭和58年から11年間インターハイ・関東大会出場を果たし、延べ優勝6回、準優勝多数を記録しています。

- 下館工業高等学校は地元下館のほか小山、真岡、総和そして筑波研究学園都市の周辺に位置する水海道、豊里、下妻、つくばなど多くの工業団地に囲まれたためぐまれた環境にあります。

各企業よりその活躍を囑望され期待も大きく、また多くの企業において下館工業会が結成されて後輩の育成にあたっています。

工業高校としては大学入学者も多く40～50名の生徒が大学に進みさらに高度技術を身につけるべく頑張っています。

昭和37年の創立当初、機械科、電気科、電気通信科の3科6学級でスタートし、すぐに電気通信科が電子科に改編され、平成6年度に電気科1学級が建設工学科に改編され、現在は機械科と電子科が2学級、電気科と建設工学科が1学級の、定員720名の規模です。

建設工学科は地域の建設業界の強い要望を受けて新設されました。

建設工学科の特色は、2年進級時に都市工学（土木）と建築のコース選択をすることにあります。

1年次は共通の基礎科目、2・3年次にはコース別の専門科目を履修します。

部活では卓球・野球・硬式テニス・ソフトテニス・バレーボール・陸上・ワングルなどの部が関東大会や全国大会に出場しています。

2 本県では少しでも魅力のある学科となるよう以下のような点で努力をしています。

1 建設現場見学の実施

建設業協会との連携で実施している行事で、1年生を対象として建設業についての概要を理解して学習意欲を喚起する目的があります。同じ目的で学校の計画で2・3年生対象に実施している学校もあります。

2 建設現場実習の実施

同じく建設業協会との連携で実施している行事で3年生（学校によっては2年生）を対象として建築工事現場を実体験して進路選択に役立てる目的があります。

3 資格取得の奨励

建築施工技術者・情報技術検定について座学または実習・課題研究の中で指導します。

4 社会人講師の活用（下館工業高等学校・谷田部高等学校等）

コース制であるため授業時間数が多くなります。これを補う必要性と、より実際の技術教育を実現する目的で積極的に社会人講師を活用しています。

平成8年度は建築法規・建築施工・CAD実習・透視図実習・建築設計製図で7名の方に16時間お願いしています。

特に地元の建設業協会と建築士会の多大な協力をいただいて実現しています。

5 地域との連携

学校によっては古民家および街並みの調査活動に部活動として参加しています。また、設計課題の中へ市の都市計画事業を反映させながら進めることで、郷土への関心を高めることをねらっています。

○ 仙台工業高等学校

仙台工業高等学校は、明治29年8月地域の産業振興のため、中堅技術者の養成を目的に仙台徒弟実業学校として開校した。関東以北では一番古く今年で100年の歴史と伝統をもち、建築科、土木科、電気科、機械科の4科18学級、生徒数720名、の工業高校である。又、卒業生も13,000名を超え全国各地で活躍しています。

昭和62年に産業社会の発展と共に進展する技術革新に答えるべく教育環境の整備、改善をねらい実習室の拡充、最新の実験実習機器の導入など近代化をすすめると共にカリキュラムの改善、教育方法の検討を行い21世紀を見据えた社会の変化に対応出来る技術者の育成を目ざして日々の教育活動にあたっている。

建築科においては、コンピュータ、CAD等の情報教育の基礎的な知識を修得させるためその指導にあたっている。又、座学と実験・実習の指導効果を期待して融合実習室を設けている。

○ 仙台第二工業高校

本校は、大正4年に仙台工業補習学校として発足以来、幾多の変遷を経て本年度80周年を迎える。仙台市東部の各種工業団地、御商団地を含む一大産業地域に位置し、地元の産業界で即戦力として役立つ技術者・技能者を養成し、建築・土木・機械科の3学科で4,800余名の卒業生を送り出してきた。また昭和44年に専修コースを設置したが今年3月に発展的に解消し専攻科（建築・土木・情報技術コース）を開設した。

教育課程は、普通教科46単位、専門教科34単位で、「働きながら学ぶ」ことの意義を自覚させながら、工業技術の基礎知識、専門的技術・技能を習熟させ社会の有為な形成者としての技術者を育成する事を目標とし、専攻科は、高校卒業生、又はそれと同等以上の学力のある者を対象とした学科で、専門教科だけ40単位、地元産業界に密着し、より高度な技術の習得と資格取得を目指し、実践的に活躍できる技術者を育成する事を目標としている。

○ 宮城県白石工業高等学校

本校は、昭和37年4月に機械科・電気科・建築科の計5学級で開校した。その後、昭和38年に工業化学科新設及び機械科1学級増設、昭和48年に設備工業科新設・機械科1学級削減を経て、現在5科7学級である。

学舎は霊峰蔵王を仰ぎ、眼前には白石市街地が一望できる緑豊かな高台にある。教育課程は、普通教科53単位、専門教科38単位で編成されている。特に、実習・製図に力点を置き、毎年製図コンクールに応募して幾度も入選を果たしている。今春には、宮城県建築士事務所協会主催の卒業設計作品展において、最優秀作品及び優秀作品に輝いた。運動部の活躍もめざましく、昨年はラグビー部が花園大会に出場し、県勢では初の3回戦進出を成し遂げた。ソフトボール部・山岳部もインタハイの常連である。

今年で35周年を迎え、老朽化した施設・設備の一新の実現化も着々と進み、次の時代へ向けて大きく飛躍しようとしている。

14. 長野県工業高等学校建築教育の現況

長野県長野工業高等学校建築科 小林 隆

長野県の工業高等学校建築科の概要

日本のほぼ中央に位置し、南北にたいへん長い長野県は、北・東・中・南信の4地区に大別され、それぞれの地に1校ずつ計4校の建築科設置校があり、すべてが県立である。そのうち、長野工業高等学校にのみ全日制に加え定時制建築科が設置されている。

昭和37年に長野県高等学校工業教育研究会が発足して以来、現在では県内4校27名の建築科教員で構成されている建築分科会を毎年1回開催しており、各校の現状と課題についての話し合いや、研究発表・現場見学研修会等を実施して中味の濃い研修を積むと共に、お互いの交流をはかる場として、多くの教員が参加している。

又、5年程前から日本建築家協会（J I A）長野県クラブ主催の学生卒業設計コンクールに4校とも参加、応募しており、昨年は池田工業高等学校が金賞に輝いた。以下、各校の概要、現況を簡単に列記します。

○ 長野工業高等学校

本校は県下で唯一の工業高校として大正7年に設立され（長野県立工業学校）、昭和23年に長野工業高等学校と改称し現在に至っている。建築科としては、全日制が大正12年に土木建築科として設置後、昭和17年に建築科となり、定時制は大正9年より設置されている。現在全日制は、機械・電気・情報技術・工業化学・土木・建築の6学科と、平成8年より新たに環境システム科を加えた合計7学科が設置されている。生徒数は8学級で（電気科のみ2学級）940名が在籍している。

又、定時制は機械・電気・建築の3学科3学級で70名の生徒が学んでいる。ただここ数年の生徒数急減によって、近い将来1学級減となる見込みである。卒業生は全・定合せて23,000余名おり、各界で活躍している。

全日制では建築科を志望する女子生徒が年々増加傾向にあり、平成5年3月卒業生で40名定員中女子が12名を占め、昨年は19名が卒業していくなど、建築科内の雰囲気も変わりつつある。しかしながら、建設業界の女子に対するニーズはまだまだ我々が望んでいるものとギャップがあり、特に進路決定時には苦慮している。

又、魅力ある学校づくりを進めるため、現在全・定建築科とは別に、夜間建築専攻科の設置を検討している最中である。

○ 上田千曲高等学校

本校は町立上田女子実業補習学校として大正6年設立され、昭和17年上田市の強い要望に基づき上田市立商工学校として建築科を設置し、昭和24年上田千曲高等学校に改称し、現在に至っている。現在の設置学科は、建築・機械・電子機械・電気の工業

科4学科に、商業・家政を加えた合計6学科、生徒は8学級（2・3年生は9学級）996名が在籍している。建築科では県下で最初にトレース技能検定（文部省認定）に取り組む、1級合格者も出るなど、CAD学習の充実と共に、各種資格試験を積極的に受験させている。

○ 池田工業高等学校

本校は町立池田実業補修学校として大正10年設立され、昭和15年に北安曇農学校、昭和23年に北安曇農業高等学校と改称、昭和38年から現在の池田工業高等学校と改称するまでは、農業科主体の学校であり、建築科が設置されたのは昭和39年と、県内では最も新しい学校である。現在の設置学科は機械・電気情報システム・建築の3学科で、生徒は4学級（2・3年生は5学級）407名が在籍している。中信地区としては、松本市に建築科設置校がないため、隣の池田町にある本校への地域の期待も大きく、それに応えるべく、特に製図・課題研究に力を入れ、教員・生徒共ども頑張っている。

○ 飯田長姫高等学校

本校は長野県飯田職業学校として大正10年設立され、昭和14年に飯田商業学校、昭和23年に飯田実業学校、翌年飯田長姫高等学校とそれぞれ改称し、現在に至っている。商業科主体であった学校に建築科が設置されたのは昭和19年からである。現在の設置学科は商業・土木・建築の3学科で、生徒は6学級717名が在籍している。その内、商業科が4学級であるため6割が女子で、学校内もたいへん明るい雰囲気である。建築科では特に本格的な施工実習を他校に先がけて実施している一方、昨年は国立大学・高専へ共に2名ずつ進学している。地理的に県都から最も離れており、県外就職者の比率は他校に比べて高い。

現況とまとめ

1998年に長野冬季オリンピック大会を控え、現在各校の卒業生もそれぞれのオリンピック施設の建設に様々な立場で数多く携わっている。又、それに伴う宿泊施設・公共施設の建設等もあり、良きにつけ悪しきにつけ、自分達の街が変わっていく様子を肌で感じとっている。地元建設業協会の計らいもあって、在校生も建設現場の見学や工事担当者の説明を聞く機会等もあり、オリンピックを違った立場から身近なものと感じ、空間を支配する「建築」という学問・行為について各々の考え方にも大きな影響を与えているはずである。身近に生の教材がある利点を生かして、生徒一人ひとりが建築を「やり甲斐のある職業」と感じ、夢を持って日々の学習に取り組めるよう、我々がうまく動機づけをしていきたいものである。

1997年（来年）は当研究会の総会を、本県が当番となって開催する事になっておりますが、少ないながらも県内4校27名の教員が一致団結して取組み、有意義な総会として成功裏に終わらせたいと思いますので、会員の先生方の御指導・御助言を是非ともいただきたく、お願い申し上げます。

15. 石川県工業高等学校建築教育の現況

石川県立羽咋工業高等学校建築科 教諭 布施 東雄

1 石川県の工業高校建築教育の概要

石川県には建築科設置校が、県立3校（学年1学級）と市立1校（学年1学級と定時制1学級）があります。各校建築科では毎年、石川県工業教育研究会総会で研究発表、研修等お互いに情報交換し、研鑽を積んでいます。また石川県産業フェア等に生徒作品を出品し、研究成果を発表して、県民の皆さんに職業教育を理解して頂くよう努力をしています。さらに各校の建築科では、石川県建設業協会、石川県建築課の協力を得て現場見学会や住宅展見学会を実施して、生徒をはじめ、保護者の建築への理解を深め、地元企業への就職を推進しています。

2 石川県の工業高校建築科の概要

○ 石川県立小松工業高等学校

昭和14年に小松工業高校（機械科・電気科）として創立された本校は、以後産業界の目覚ましい発展とその変化に伴い、昭和23年には商業科の合併と紡織科の新設により小松実業高等学校と名称を変更し、昭和24年には普通・商業・工業・家庭・農業課程を有する総合制小松高等学校へと生まれ変わりました。以後家庭・農業科が廃止され、小松商業高等学校新設等の変遷を経て、昭和40年現在の石川県立小松工業高等学校の礎が誕生しました。以後時代の要請により昭和40年には工業化学科、41年には建築科、42年には土木科が新設され、平成2年には機械システム科、平成6年に電子情報科・マテリアル科が新設され現在に至っています。

目まぐるしい産業界の変化の中で、創立以来30年を経た本校建築科の歴史は、まさに、地元企業と共に歩んできたと言っても過言ではありません。卒業生の多くが地元企業へと巣立ち、育てられ活躍し、また後輩を迎え入れる、このサイクルが30年の歴史でありその間、本校建築科の役割は、常に企業に目を向け、その求める人材を育成することでした。現在卒業生の多くが企業の中で、中堅あるいは幹部社員として活躍し、後輩を育成し在校生の励みとなっている姿は真に喜ばしい限りです。今後もこれらの姿勢を崩さず、さらに企業との連携を密にし、より求められる人材を育成する事が本校建築科のあるべき姿と思われます。

○ 金沢市立工業高等学校

本校は、昭和3年4月に金沢市立工業学校として金沢市に創立した。昭和23年4月には、金沢市立工業高等学校（本科第一部：機械・電気・建築・土木課程）（本科二部）を設置し、新たにスタートする。その後、昭和24年4月に家庭科（昭和38年生徒募集停止）、昭和34年4月に電子科、昭和38年4月に精密機械科・情報科が新設された。

現在8学科生徒数903名（女子240名）で、平成10年には創立70周年を迎えます。

教育課程は大学進学者増加（進学率約4割）と専門高校生を含めた大学の入試制度

の多様化に対応するために、平成8年度入学生より、2年次からコース制（就職及び進学コース）を採用した。建築科の単位数は、普通教科（46～63単位）専門教科（30～47単位）を履修する事ができる。近年、幅広い教育を目指す目的で、インテリアコーディネータ、積算等の外部講師を招き講習会（3年生において20時間）を1学期末に開いている。平成7年には「建築物防災週間」の一環として、阪神・淡路大震災被害報告を建築士会の方を招き講演会を開いた。

○ 石川県立羽咋工業高等学校

本校は、昭和37年に創立（機械科・電気科・建築科・土木科）された。産業界の技術革新、生徒減等により、学級数の増減を経て、昭和49年にデザイン科、昭和60年に電子機械科の新設、昭和63年機械科の募集停止、平成7年に建設造形科を新設（建築・土木・デザイン科の募集停止）した。建築科では創立以来、平成7年度までに1,266名の卒業生を輩出し、その多くは地元企業をはじめ、県内、県外の大企業で中堅技術者としておおいに活躍している。建設造形科では2年次より建築・土木・デザインの各コースに分かれ、それぞれのコースで就職・進学の選択科目を、3年次ではさらに進路に応じて専門を深める選択科目を設定し、進学にも就職にも十分対応できるカリキュラムを編成している。学科改変に伴い、実習棟の新築、建築専用CADの導入、実習機器の更新等が成り、玉がけクレーンの資格取得やCADの開放講座を実施すべく検討中である。

また、2年生全員を対象に、平成6年度より企業体験学習を企画し、地元企業へ実習生として生徒を派遣し、実社会のきびしさを体験し、建設業の理解を深める授業も取り入れている。

○ 石川県立珠洲実業高等学校

石川県の最北端に位置する本校は、昭和38年に創立。当初は商業科・家庭科として発足したが、昭和46年度より建築科を設置し、平成2年度より現在の商業科・情報流通科・建築科の3学科となり、今日に至っている。

本校では、「自分で考え、実行する力を培う」ことを主眼に、実習科目を中心として教育している。特に、卒業製図では生徒全員が7～9枚の作品を描きあげ、製図展として一般に公開し、好評を得ている。また、現場実習を2年生全員を対象に地元建設業協会の協力を得て、平成2年度から実施しており、体験学習を通じて教科への理解を高めている。

平成5年度にUNIXの建築専用3次元CADを14台導入でき、外観パース、展開図等も確認できるようになり、生徒の学習効果を高めている。また、平成8年度は、WindowsNTでネットワークを組んだパソコン28台を更新し、情報教育、測量等の実習データの整理、課題研究などに役立っている。本校生徒の就職は県内・地元企業がほとんどである。しかし、近年、大学・専門学校への進学希望者が増えてきており、専門教科と普通教科との選択授業を多く取り入れることで、これに対応している。

16. 事務局からの報告・ニュース

1. 事務局が都立葛西工業高等学校から都立蔵前工業高等学校に移りました。葛西工高の先生方長い間ご苦勞様でした。蔵前工高は単学級校でスタッフが少なく、会員の皆様には不便をかけることが多くなると思います。研究会もあと4年程で創立50周年を迎えます。抱えている問題は多くあります。これからの3年間少しでも研究会を発展できればと思っています。

7月に官報に告示され、本年度より実施される「建築施工技術者試験」の窓口として昨年度組織された「全国高等学校建築教育連絡協議会」の事務局は前本会事務局長の松井先生が本校に異動されたため自動的に蔵前工高で行っています。本校建築科の職員室は狭いのですが窓からは「両国の国技館」、「江戸東京博物館」を見下ろせる所にあります。近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。

2. 平成8年度（第46回）の総会、研究協議会が「名古屋国際会議場」で盛大に開かれました。すばらしい発表で大会を盛り上げていただいた研究発表者の先生、実行委員長の坂野上 義先生（名古屋市立工芸高等学校長）を中心に二年越しで計画、運営に携わって下さった愛知県、岐阜県、静岡県の諸先生方には感謝の気持で一杯です。笑顔とチームワークのよい進行で参加した会員全てが充実した二日間でした。年に一回の集りですが来年度の再会を楽しみにしています。繰り返しになりますが運営に参画された先生方本当に有り難うございました。

9月の常任理事会で総会、研究協議会の運営について種々な意見が提起されました。事務局としても総会、研究協議会が本会の一番重要な事業ですから、会がいつまでも継続できるように改善すべきことがあればすぐに是正してゆきたいと考えています。

3. 平成8年度の夏期研究協議会は施工分科会の主催の「施工図・積算の指導演法」の内容でした。7月29日神奈川県立神奈川工業高等学校で講義、実技指導が行われ、翌日は「みなとみらい21中央区24街区新築工事」の現場見学でした。約70名の参加を得て、講義が大いに盛り上がったと聞いています。施工分科会の皆様ご苦勞様でした。また現場見学ではお世話になりました。

平成9年度は構造分科会の主催です。分科会の底力で、有意義な研究会が実施されそうです。楽しみにしてください。

4. 建築ニュースが皆様のお手元に届く頃には「建築施工技術者試験」の本番を迎えることとなります。私たちの希望でたくさんの方に協力していただいた末に実施されることになりました。当初予想した受験希望者よりも多くなりそうです。この上は合格率を向上し、この試験を定着させたいと考えています。各校でがんばりましょう。
5. 平成8年度の賛助会によるご援助は建築資料研究社、建築施工管理技術研究会、(法)原宿学園 東京デザイン専門学校、(株)クレス東京の各社よりいただきました。製図コンクール運営費等に活用させていただきます。各社には厚くお礼を申し上げます。

あしがき

おかげ様にて「建築教育ニュース」1996年号ができました。

教育活動にお忙しい中で、ご執筆いただきました先生方有り難うございました。

1996. 11

編集委員会

編 集 編集委員会 古賀昌之(墨田工) 遠藤 勇(日工大付東京工)
菊池貞介(市川工) 鈴木 健(葛西工) 大間俊彦(関東第一高)

発 行 東日本建築教育研究会 (代 表 北島 敬己)

事 務 局 東京都台東区蔵前1-3-57 TEL 03-3862-4488
都立 蔵前工業高等学校 (事務局長 堀内 仁之)

編集事務局 東京都江戸川区松島2-10-11 TEL 03-3653-1541
関東第一高等学校 (大間 俊彦)